

音環境（騒音）の測定のレポートについて

人により、出来映えにかなりの差がありましたが、以下の点に注意して、今後のレポートの作成に取り組んでください。

- 1) レポートは、人に見せるものです。講義や実験のレポートでは、提出先の教員がある程度事情を把握しているので、問題とはなりません。説明不足のレポートが多数見られました。例えば、「方法」は、それを読んで、他の人が同じように測定を行うことができますか？必要以上に細かく書く必要はありません。
- 2) レポートを作成した際に使った計算式や語句の説明なども入れてください。もちろん、これも要以上に細かく書く必要はありません。
- 3) 数字で出てくるデータでは、「54」と「54.0」は、意味が違います。「54」は一の位まで読みとった結果であるのに対し、「54.0」は小数点一桁まで読みとった結果です。機器の精度の問題でもありますので、注意しましょう。
- 4) 考察と感想は、分けて書きましょう。考察は、結果を受けて、どのように判断できるか？どのように考えられるか？ということを書くものです。一方、感想は、自分が感じたことを書くものですから、結果とは必ずしも関係なくともいいわけです。
- 5) グラフや図表を書く際には、他人が見てもわかるように説明を入れましょう。例えば、単位や凡例は欠かすことができません。また、図表の見かたについても、説明を入れましょう。
- 6) 今回のように、班ごとに異なった場所で測定する際には、他の班の結果と自分の班の結果を比較してみましょう。
- 7) 判断の基準となった図表などの出典を明記しておきましょう。どこの何を見て、そのように判断したのか？を、明示して下さい。
- 8) 基準に照らし合わせて、「小さい」と「良い」のでしょうか？「悪い」のでしょうか？例えば、25 の環境は、冬季では「暖かい」環境ですが、夏季では「涼しい」環境になります。
- 9) 一文が長く、また句読点の位置がおかしいために、非常に読みにくいレポートがありました。レポートが完成したら、もう一度、自分で読んでみて、すんなりと読めるかどうか確認してください。自分でもわからない場合は、他人にはわかるはずはありません。
- 10) レポートのどこかに、ページ番号を記入してください。もしも、レポートがバラバラになっても、順番が変わるようにして下さい。
- 11) ワードで書く場合に、ほとんど同じような考察を書くと、人のものを写した（更にいえば、コピーした）とも取られかねません。十分注意しましょう。